

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立八女農業高等学校

自己評価					学校関係者評価	
学校運営計画(4月)				評価(総合)	評価(総合)	自己評価は
学校運営方針		教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指し、農業の意義や役割の理解と「農業に関する将来のスペシャリスト」として必要な専門知識・技術を習得させる。 校訓「自律・創造・協同」を旨としながらより良い校風の樹立に努め、「厳しさや苦しさに耐える自律心」、「感謝と思いやりの心」、自己実現のために必要な「創意工夫する創造力」を育成し、農業及び地域産業並びに地域社会の発展と活性化に寄与できる人材づくりを目指す。			評価(総合)	自己評価は A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である
昨年度の成果と課題		年度重点目標	具体的目標			
【成果】新型コロナウイルス感染症の影響で多くの学校行事が中止となったが、感染防止に最大限の配慮をし八女農祭や修学旅行といった生徒の活躍する場を実施することができた。学校農業クラブの県連事務局として県大会(DVD審査)の開催・運営や全国大会への出場などコロナ禍において農業クラブの活動を継続することができた。また、創立120周年記念事業の一つとして、同窓会の支援により串毛演習林の表札設営が完了し、森林環境を学ぶ学習環境の整備が整ったことから、ワンヘルス教育をはじめとする特色ある教育活動が一層充実できる環境が整った。令和4年度から始まる「動物ペット科」「食品開発科」に向けた広報活動の成果により令和4年度入学者選抜では115名の入学希望者を集めることができた。これからも外部講師による講演や就職指導員の配置、全職員の連携による指導等によりキャリア教育の充実が図られ、5連続進路決定100%を継続して実現していくことができた。 【課題】令和4年度は学科改編スタート、新教育課程移行の年となる。地域や中学生から選ばれる魅力ある学校づくりを目指して、学校広報、ICT教育の充実により一層各学科の教育内容の精査を加速していく必要がある。		(1) 生徒の確かな学力の育成を図り、地域との交流を深める活動を通して農業に関する将来のスペシャリストとしての自覚と必要な専門知識・技術を習得させる。	①学習目的の明確化と規律ある授業を展開し、日常の授業に対して熱心に取り組む態度を育成する。 ②地域との交流活動を通して地域貢献の意識を育み、本校での『学び』を地域に還元する意識と意欲を育む。(特に隣接する公立八女病院との連携強化)			
		(2) 生徒の学習状況の習熟程度に応じた個別やグループ別指導学習等の取組みを行い、「基礎・基本の徹底」を図る。	①教科・科目全領域において基礎学力の定着に向け、授業の工夫改善を図り、きめ細かい指導を行う。 ②ICTを活用した授業等の工夫と活用を図り、生徒一人一人の学習能力の向上に努める。			
		(3) 自尊感情を高め、他人を思いやることのできる心豊かな人間形成に向けた取組を推進し、人権意識の高揚やいじめの撲滅を目指す。	①挨拶等の礼儀作法、時間厳守、掃除の徹底、服装等の基本的な生活習慣を確立するための指導を全職員で取り組む。 ②学校の教育活動全般を通じた人権教育を推進し、生徒一人一人が大切にされることが実感できる学校づくりに努める。 ③生徒支援相談・いじめ問題対策委員会を中心とした組織的な連携により、いじめの発生防止と支援を要する生徒の早期発見に努める。また、スクールカウンセラーや訪問相談員、スクールソーシャルワーカーの活用を図り、悩みを抱える生徒等への教育相談機能を活性化させる。 ④特別支援教育充実に向けた校内体制を活性化し、生徒の支援体制を整える。			
		(4) 学校の教育活動全般において、人として正しく判断し、行動できる生徒を育成する。	①生徒会活動及び農業クラブ活動の活性化を図り、農業高校の特色を活かし実践力のある生徒を育成する。(生徒による運営、進行等活躍できる機会を増加する。) ②部活動の見直しを行い入部率の向上を図り、併せて学校活性化を図る。			
		(5) 意欲ある入学志願者の確保のため、学校広報を強化し、入試方法の改善を行う。	①新学科の学習内容を精選するとともに魅力ある学科の教育内容をHP、SNS等を駆使し発信する。 ②中校訪問をより実施し、体験入学への参加者の増加を図るとともに、出前授業、学校説明会を積極的に行う。ホームページ、広報誌を活かした広報活動を促進する。 ③中学校や保護者へ特色化選抜入試への理解を強化する。			
		(6) 「鍛ほめ福岡メソッド」を推進し、120周年事業を通して全教職員の意識の向上を図る。	①120周年事業をきっかけに、全教職員が一丸となって教育活動の充実と教育環境の整備を行うとともに、学校行動指標に基づいた教育活動を実践していく。			
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)	次年度の主な課題		
教務部	学習意欲を高め、基礎学力の向上を図る。	各科目の学習目標や計画、評価を点検し、生徒に学習の達成感をもたせる。 特別活動、HRや総合探究を通して、将来の目標や自己の在り方をもたせる。 考査前学習会を実施して学習内容を深めさせ、基礎学力の向上を図る。				
	規律ある授業を実施し、学習環境を充実させる。	教務規定や授業規律を見直し、生徒の学習環境づくりに努める。 時間管理能力の育成に向けて、ノーチャイムを実施する。 生徒の関心意欲の見取りや学習態度を育成するため、学習の過程などを多面的に評価する。				
	農業高校の特色ある教育内容の検討・推進と情報発信を図る。	新学習指導要領をもとに、各教科に係る教育内容の検討や導入を進める。 本校の将来ビジョンを構築し、新学科の編成及び教育課程の検討を進める。 本校グランドデザインの達成や各科の特色を情報発信する。				
	生徒の図書館利用の促進を図り、知的好奇心を喚起する	図書委員への指導を充実させ、委員会を中心とした読書の活性化を図る。				
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見					

生徒指導部	生徒指導課	基本的な生活習慣及び自己肯定感の確立と他者を思いやる心の育成を図り、自律の精神を養わせる。	生徒会や農業クラブ役員等と一緒に全職員で定期的に挨拶運動や声掛け運動を行う。 季節や体調・学校行事などその時に応じた身だしなみの指導を徹底する。 全生徒が自らの規範意識を高め、校則等を遵守する力を養うことができるような指導を行う。						
		学校行事等を通して、自己の役割を果たし、仲間と協同する力を養い、愛校心を育むとともに地域から信頼される生徒を育成する。	生徒会活動や農業クラブ等の活動に積極的・主体的に参加させる。 地域の活性化に繋がる活動に積極的に参加させる。 部活動の加入率を向上させるために、強化部の設置等の取組を行う。						
		自他の安心や安全を確保するといった意識を高めさせ、危機管理体制の充実を図らせる。	情報モラル教育やネットパトロールを行う。 スマートフォンや携帯電話等の正しい使用の仕方について、全職員・保護者の共通理解のもと、組織的な取組を行う。 学校・家庭・関連諸機関等との組織間連携を密に行いトラブルの未然防止と素早い初期対応ができる体制を整える。						
	保健課	生徒の健康課題やニーズの把握	生徒の健康課題やニーズを把握し、個々の特性・発達段階に応じた継続的支援を工夫する。 生徒一人一人に自信と誇り感謝を持たせる工夫を重ねていく。 学年・他分掌・各種委員会と連携し、健康教育推進事業、SC、SSW、訪問相談の効果的活用を努める。						
		安心・安全で快適な教育環境づくりへの取り組み	校内美化活動の活発化を進める。 薬剤師による教育環境の調査・点検・改善を図り、学習環境の「整美」を行う。 消毒液の設置・手洗い場の管理・換気等日常における学校環境衛生管理を行う。						
		委員会活動(保健委員会・美化委員会)の活性化	保健委員会と美化委員会を活用した健康教育等を充実させていく。 高等学校保健会での研究発表、論文・ポスター・標語等積極的参加し、自らの健康への意識を高める。 「保健だより」や掲示物を通して、健康に関する正しい情報を発信していく。						
	人権・同和教育課	本校における教育活動の全領域において人権・同和教育を積極的に推進する。	人権・同和教育推進委員会の企画と運営を行う。 全職員が人権・同和教育授業に参加する。 あらゆる場面で人権教育に取り組む。						
		本校における生徒の学習を保障し、積極的に生徒の学校生活を支援する。	生徒一人一人の実態を把握し、生徒と教師のつながりを強め、生徒を支援する。 保健課、生徒支援相談・いじめ問題対策委員会等との連携を密にして生徒の問題解決に当たる。 各種奨学金の案内、手続き等を行う。						
		職員の協力のもと、八女地区高校および県立学校人権教育推進協議会(合推)事務局運営を行う。	地区合推の定例学習会を開催する。 地区合推の研修会・総会などの企画・運営を行う。 外部諸機関との連絡・調整を行う。						
	進路指導部	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	3学年担任との定期的な会議を実施する。 就職は、令和2年度に内定した企業の人事担当者との連携を深め、今年度並みの求人数を確保する。 進学は、4年制大学の魅力を伝え進学の選択肢の1つとして考えさせる。						
		学年や各科と連携して組織的な指導の充実を図る。	生徒の個人面談を行うことにより、適性に合った進路選択を促す。 就職は、10月末に内定率80%、1月末に内定率100%を目指す。 進学は、個別指導を徹底し、合格率100%を目指す。						
		3年間を通じた進路指導の検討と充実に努める。	進路ガイダンスはコロナウイルスの影響が心配されるが、安全対策を充分に行い計画的に実施する。 課外授業を充実して学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。 資格取得を推進する。						

研修情報部	研修課	職員研修全体の企画・立案及び円滑な運営を図る	学校の教育課題とその解決策や職員のニーズに対応した研修を企画・実施する。 タブレット導入も視野に入れ、ICT機器の活用法を紹介したり、効果的な指導ができるような研修会を実施し、職員へのサポートを行う。							
		若年教員研修と教育実習生の指導力の育成および向上に繋がる研修を教科・各学科・各分掌と連携して実施する	研究授業を推奨し、年に2回の授業アンケートを実施することで、個々の授業改善を図る。							
			教員がOJT、OFF-JT、メンター制等を活用できるよサポートし、学校全体が協力して総合的に研修を推進していく。							
	情報課	ICTを活用した情報教育の推進およびICT活用指導力の向上を図る	若年教員研修や教育実習がスムーズに実施できるよう、校内だけでなく関連機関との連絡や報告文書の送付を遺漏なく行う。							
			初任者や教育実習生の指導力育成および向上につながるよう、指導教員や教科指導員との連携と研修の企画、実施を行う。							
		電子黒板やタブレット端末の更なる活用の推進を図り、授業や非常時などに適切に対応できるように活用能力の向上や指導力の向上を目指して、研修会等を開催する。								
企画・広報部	式典・行事等の企画、立案及び円滑な運営を図る。	ICT支援員と連携し、授業改善や研修会の充実を図る。								
		校内のPCやネットワークが円滑に運用されるように、日常のメンテナンスに心掛け、問題が発生した場合に迅速に対応できるようにする。								
	校務支援システムの円滑な運用を図るため、各部各課に校務支援システム担当者を定めてもらい、連携を深めていく。									
第1学年	基本的な生活習慣の確立	ホームページの管理・更新を定期的に行う。	各部と連携をしながら、ホームページの管理と更新を定期的に行う。							
		保護者との連携を強化し、PTA活動を活性化させる。	学校運営に係る企画、庶務全般の運営を円滑に行う(会議、行事に係る資料の印刷、管理等)。							
			防火防災避難訓練の企画、立案及び円滑な運営を図る。							
第2学年	規範意識の深化	表彰に係るデータの管理、表彰式の計画、表彰状の作成等を遺漏なく行う。								
		進路実現に向けた指導の充実	PTA行事、互助会行事、親和会行事に参加を促し、成功させる。							
			PTA総会、地域懇談会、PTA視察研修会等、新型コロナウイルス対策を考慮しながら、企画、立案及び円滑な運営を図る。							
第1学年	生徒一人ひとりの希望進路を把握し、適切な進路指導を行う。	PTA各種委員会活動(合同交通指導、PTA新聞発行、PTA校内バレーボール大会等)全般への支援を行う。								
		八女地区PTA行事(バレーボール大会等)への参加・支援を行う。								
		広報委員会と連携し、八女農だより発行等で、本校の活動を発信していく。								
第1学年	規範意識の高揚	各学科、各学年と連携を密にして、行事や実習等の情報を収集し、地元メディアと連携し、中学生や地域に発信していく。								
		各学科の販売実習等の活動を庶務・広報部に事前連絡してもらい、FM八女等で発信する。また、各新聞等での八女農業高校の記事を庶務・広報部に連絡してもらい、校内にも広報する。								
		ノーチャイムでも時を守れるように、担任・副担任及び学年で連携して指導する。								
第2学年	基本的な生活習慣の強化と学習環境の整備	挨拶をすることがコミュニケーションの基本であることを理解させ、継続的な指導を行う。								
		全職員で、着こなしや、言葉遣いの指導を徹底する。								
		進路マップや進路アンケート等を活用して、進路目標を決定していく。								
第2学年	進路実現に向けた指導の充実	SPI、進路マップを活用しながら学力の向上を図り、進路希望の実現を図る。								
		各種検定・資格取得に向けて指導を徹底する。								
		人権意識を持たせ、いじめを許さない雰囲気を作る。								
第2学年	規範意識の深化	物事に対して、正しい判断力を身に付けられるように、HRを通じて継続的に指導する。								
		校則を遵守させ、頭髪・服装については、生徒指導部と連携を密にして、学年全体で指導する。								
		生徒指導部と連携して指導の充実を図り、生徒自らが校則を順守していくことで、中堅学年としての意識を高める。								
第2学年	基本的な生活習慣の強化と学習環境の整備	問題行動につながる内容については情報を共有し、学年団として取り組む。								
		褒める指導を通して自己肯定感を育み、諸行事や学習活動に対して積極的な取組を促す。								
		基本的な生活習慣の指導や授業規律の指導を継続し、学習態度の向上を図る。								
第2学年	進路実現に向けた指導の充実	教室の環境を整える。(持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底)								
		お互いに協力して学ぶ仲間作りの意識を持たせる。								
		個人面談等を通して生徒の掌握に努め生徒に対応したきめ細やかな指導を行う。								
第2学年	進路実現に向けた指導の充実	進路指導部と連携を図り、進路情報を提供し進路意識を高めさせる。								
		各種検定や資格の取得を積極的に取り組ませる。								

第3学年	進路実現に向けた指導の充実	進路指導部と連携して生徒に的確な情報を提供し、進路の明確化を図る。 進路指導部及び学科・各教科と連携して個人面談や三者面談を計画的に行い、進路実現に向け主体的に行動させる。 朝学習を充実させ、基礎学力の定着を図る。 各種検定・資格取得に意欲的に取り組ませる。					
	最上級生として学校全体をリードする生徒の育成	生活面・学習面において1・2年生の模範となるよう、八女農生としての自覚と愛校心を培う。 学校行事に際し、1・2年生を指導し協力して活動する意識と態度を育成する。					
	基本的な生活習慣及び規範意識の確立	進路決定後も生活習慣の乱れがないよう、無断欠席や遅刻者をなくす指導を継続する。 頭髪・服装および問題行動等については生徒指導部と協力し、学年団として徹底指導を図る。 教室の環境を整える。(持ち物の整理・整頓、ごみの分別、清掃の徹底)					
農務部	農業クラブ活動の充実と県大会の成功	県連事務局としての農業クラブ県大会の成功に向けて取り組む。 プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導を学科の枠を越えより組織的に プロジェクト発表、意見発表、農業鑑定競技等の指導を学科の枠を越えより組織的に 行う。					
	農業教育の理解とイベントによる学校PR	体験入学の運営を円滑に行い農業教育の理解に努める。 イベントでの広報活動に力を入れる。 インターンシップの受け入れ先の検討や事前指導・事後指導の徹底を図る。					
	農場の環境整備と備品の充実、ICTの導入	必要備品の購入と計画的な廃棄処分を行う。 授業に活かせる農場・実験室・実習室の整備を行う。 農業科目におけるICTの導入と活用法について研鑽に励む。					
生産技術科	教育内容の精選と充実	2年時からプロジェクト学習を行い、専攻学習内容の充実を図る。 学習環境の整備を推進し、各専攻の生産物の品質を高める。 生産から販売までの系統的な学習を通して農業経営力を育成する。					
	進路実現に向けた組織的な指導	組織的に指導を行い、規範意識の向上、基本的な生活習慣を身に付けさせる。(挨拶等の礼儀作法、時間厳守、身だしなみ、授業規律等) 1年から進路先を研究させ(進路室の活用、パソコンでの情報収集、個人面談など)進路実現に向けて取り組ませる。 進路部や担任と連携し、生徒一人一人にチューターが生徒に応じた指導を行う(面接、小論文、4年制大学進学対策等)。					
	地域の要望に貢献できる教育活動	販売実習や地域の保育園及び小・中学生等の農業体験授業を積極的に行い、地域に根ざした農業教育の充実を図る。 研究機関と連携し、最先端の農業の知識・技術の習得に努める。 北山農場の観光農園化推進。					
システム園芸科	教育内容の充実、指導の工夫・改善を図る	学科の特色を生かし、農業生産物の充実と付加価値のある農作物生産をする。 一年生に対して学科の内容を分かり易く説明し特色ある教育内容の充実を図る。 新たな栽培技術に取り込み高度な知識の習慣を図る。					
	基本的な生活習慣の確立並びに風紀指導の充実を図る	毎時の授業において服装、頭髪、挨拶、言葉遣い及び時間厳守等の指導を行い規律ある学校生活を送らせる。 実習時間等を活用し生徒一人ひとりの理解に努める。					
	学習意欲の向上を図る	課題解決学習を積極的に取り組み、学習意欲の向上を図ると共に自主性を身につけさせ、生徒の探究心を引き出させる。 資格取得のための指導を強化し合格率の向上と上級の資格取得を目指させスキルアップを図り、進路実現に繋げる。 栽培物の担当を決め責任感と共に学習意欲の向上を図る。					

生物 利用科	学科の特色を活かした農業教育の実践と主体的な学習態度の育成	学科の特色を活かした専門性を深化させる研究活動(プロジェクト学習)、八女農ブランドの積極的な開発と資格取得の推進。					
		プロジェクト活動の内容の充実を図り、各学年での発表会を実施することで課題解決能力を育成する。					
		農業クラブ活動を充実させ、県大会で各種発表・競技会で2個以上の最優秀賞を獲得する。					
		4年制大学をはじめとした進学指導、及び就職指導の充実を図る。					
	社会の一員としての生き方を学ばせる生活指導と安全指導の充実・徹底	週1回の定例会議での情報の共有化を図り、教師間で生徒指導の目線を合わせた職員体制で取り組む。					
		知・徳・体のバランスのとれた人格の形成を図りながら、知識、技術を身につけさせ、生徒の自己実現を図る。					
		インターンシップ事前指導の徹底。受入先の開拓。企業とのネットワーク作り。					
	開かれた学校作りの推進と地域との連携・PR強化	保育園・小中学校との交流や出前授業・開放講座等の意欲的な実施。					
		学習活動をHPや学校便り、生物利用科便り、道の駅や販売所のパネルで積極的に発信、生物利用科の取り組みや学習内容を地域に理解させる。					
祭り(道の駅等)や地域行事への参加等による地域とのつながりを強める。							
北山農場における動物科学専攻施設の地域開放(動物園化)と新しい動物の導入。							
生活 科学科	基本的な生活習慣・社会的マナーの確立	挨拶や正しい言葉遣い、高校生らしい服装や頭髪等、清潔感のある身だしなみについて、意味を考え自ら実践することのできる態度を身につけさせる。					
		授業開始・終了での挨拶・服装指導を共通理解を持って行う。					
		遅刻・欠席・早退の届け出を徹底し、事後指導について確実に行う。					
	学習成果を進路に結びつける	農業分野とヒューマンサービス・フードデザイン分野との連携を図る授業を展開する。地域連携・外部講師による事業を積極的に導入し、授業を充実させる。					
		多くの生徒の希望に合うインターンシップ先の開拓を行い、進路実現につなげる。					
		進路カードの活用により生徒の進路の希望や特性を把握し、学科職員の共通理解の基、担任を中心に進路指導を行う。					
あらゆる場面を学習発表の場と考え取り組む	八女農祭で生徒一人ひとりが活躍し、日頃の学習成果を発表し、地域へPRする。						
	各行事において規律や団結を学び、リーダーの育成を行い学科としての協力・生徒間の絆を深める。						
	プロジェクト学習の発表会を年2回行い、科学的思考力や問題解決能力・コミュニケーション能力を育成する。						
事務 部	電話対応・来客接遇の向上	電話やお客様対応をとおして、相手の立場に立った「丁寧でさわやかな接遇」に努める。					
	老朽化が進む建物の安全管理	定期的に校内巡視を行い「必要に応じて予算要求」を行ったりしながら施設の補強や修理を行う。					
		職員に対して、機会あるごとに学校全体の安全意識の醸成を図る。					
	効果的予算執行	「地域や保護者、PTA・同窓会等から信頼されるような学校作り」をする。本校の教育活動に対する理解と協力を求め、教育活動充実のための予算確保に努める。					
職員に対して節電・節水を始めとする経費節減を呼び掛け、節約した予算で必要な予算措置をする。広報活動の予算確保をしたい。							

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・  
・  
・  
・  
・

評価項目以外のものに関する意見